

アニマルセラピーに関する研究

－アニマルセラピーの様相と展開－

齋藤 萌

本論文では、「アニマルセラピー」の概要やその効果、日本や海外で実際に行われている事例を通じてアニマルセラピーの可能性を探り、日本における動物カフェの多様性、猫カフェ文化の広がりとその効果について調査・分析することを目的としている。また、動物を見て癒やされたり、気持ちが明るくなったりした経験を持つ人に対して、アニマルセラピーについて周知する目的も担っている。認知度が高まることで、今後日本でアニマルセラピーが普及し、さらなる医療の発展に繋がることも期待できる。アニマルセラピーの認知度と猫カフェ利用経験に関する調査では、大学生男女 10 名を対象とした Google フォームによるアンケート調査を実施した。調査結果から、アニマルセラピーという言葉の認知度は高いが、具体的な効果や知識は曖昧であることが明らかになった。また、猫カフェを利用することでストレスの軽減やリラクゼーション効果が生じ、アニマルセラピーの効果の 1 つである心理的效果を得られることが証明された。本研究を通じて、アニマルセラピーに対する理解促進と普及活動、動物との触れ合いの機会を構築することが重要であると再確認できた。アニマルセラピーはまだ奥が深く、様々な視点からの調査が必要である。これからも今まで以上に積極的に動物と関わり、さらにアニマルセラピーの知識を深めていきたい。